

日本

鉱工業生産指数（2019年8月）

輸出の減少基調を背景に、生産は緩やかな減少傾向

政策・経済研究センター

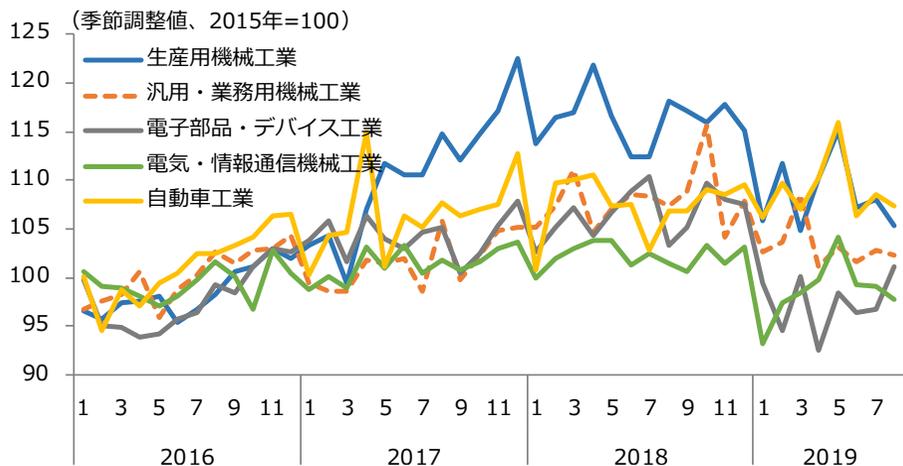
田中康就

03-6858-2717

1 鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



2 業種別の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 8月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲1.2%と、2ヶ月ぶりに低下した。
- 業種別にみると、15業種のうち12業種が低下。アジア向け輸出の生産に占める割合が高い業種を中心に弱い動きが続いた。
- 生産用機械工業（季調済前月比▲2.6%）は、アジア向け輸出の減少により、19年以降、均してみれば減少傾向にある。汎用・業務用機械工業（同▲0.5%）は、輸出の減少に加えて在庫調整圧力の強まりが生産抑制要因となり、18年に比べて低い水準が続いた。世界的な半導体関連需要の調整が下押し圧力となっている電子部品・デバイス工業（同+4.5%）は、2ヶ月連続の上昇となったものの、18年に比べて低い水準にとどまる。
- 自動車工業（同▲1.1%）は、消費税増税前の駆け込み購入に備えた増産は小さいとみられるが、乗用車や車体・自動車部品を中心に底堅く推移している。
- 製造工業生産予測調査によると、19年9月の生産は季調済前月比+1.9%と見込まれている。予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値は同+0.3%程度であり、9月の生産は小幅ながら増加が予想される。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、中国などアジア向け輸出の減少や世界的な半導体関連需要の調整を背景に、緩やかな低下傾向にある。
- 先行きも、生産指数の低調な推移を予想する。国内向けでは、消費税増税後に国内需要の伸び鈍化が予想され、生産の抑制要因になる。海外向けでは、米中摩擦の激化による中国経済の減速などを背景に、アジア向け輸出比率が高い電子部品・デバイス工業や生産用機械工業、汎用・業務用機械工業などで低下が見込まれる。
- 生産の下振れリスクとしては、①世界経済の一段の減速や、②輸出減少の波及や株安などによる国内需要の悪化、③金融市場における一段の円高進行、が挙げられる。